

令和5年度組織・財務検討委員会協議結果

1 取り組み計画の概要

第Ⅰ期：具体的な取り組みの検討・見直し、調整・周知期間（令和2年度：終了）

第Ⅱ期：第Ⅰ期で検討した取り組みの実施、研修会内容の検討（令和3～4年度）

第Ⅲ期：職連協支部区割りの検討並びに研修実施に係る環境整備、企画・実施方法
(令和5年度)

2 令和4年度の内容

協議事項	結論
理事会・代議員会の見直し	所属社協にもよるが、役員会等への参加による負担感は少ないと判断できる。オンライン会議は移動時間の負担軽減になるため、積極的に採用していきたい。よって、理事、代議員の役割については現状維持とする。
研修実施に係る環境整備、企画・実施方法	新たに研修委員会を設置することなく、従前どおり、引き続き理事が研修を実施する。理事の任期が2年であることから、交代のタイミングでも理事が研修のイメージを共有できる資料を作成する。 将来的に、支部研修と中央開催研修を連動する方向で検討していく。
支部活動推進事業助成金の使途	支部構成は、会費還元、支部運営助成金に関係するため、各支部での検討も行い、次年度も継続して委員会で協議する。各委員ともに、職連協の魅力として「交流」ができることを挙げていて、つながりづくりは社協職員の重要なスキルであり、交流を行うことによって情報交換、課題整理等、仕事に反映できていることがわかった。 今後も積極的に交流の機会を設けていくが、よりよい運営方法について各支部で検討し共有する。なお、支部の決算報告の開示は全ての委員が可能と回答した、今後も明瞭な事業・決算報告に努める。

3 検討事項

(1) 第Ⅲ期：令和5年度検討内容

協議項目	内容
職連協支部区割りの検討	・ 支部構成地域、社協数、会員数、局長会構成との整合などにより、支部の区割りを見直すか否か。
研修実施に係る環境整備、企画・実施方法 職連協が主催する研修について	・ 支部連携研修の内容及び相互参加について ・ 連携事業に合わせて、支部活動推進事業助成の見直し ・ 職連協が主催する（専門研修・階層別研修（新任・初級研修・中堅職員研修・リーダー研修））について

(2) 第Ⅲ期：令和5年度検討過程

<p>第12回委員会 令和5年10月25日 (zoom オンライン)</p>	<p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職連協の研修実施に係る環境整備等について ・ 支部活動推進事業助成の見直しについて ・ 職連協が主催する(専門研修・階層別研修)の在り方について
<p>第13回委員会 令和5年12月14日 (zoom オンライン)</p>	<p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度事業の方向性について ・ 専門・階層別研修について ・ 第60回関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究協議会について(群馬大会) ・ 第61回関東ブロック郡市区町村社協職員合同研究協議会について(茨城大会)
<p>第14回委員会 令和6年2月18日 (セシヨウ・ウェルビーイング 福祉会館)</p>	<p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度のまとめについて ・ 令和6年度事業について

協議事項

(3) 第Ⅲ期：令和5年度協議内容及び結果

協議事項	委員の意見と結果
<p>研修実施に係る環境整備等について</p> <p>【現行】 支部連携研修の実施状況について、今年度はまだ実施されていない。実際問題として、他の支部の会員が支部独自の研修に参加は可能なのか。そして、現行では参加費は個人負担になっているが変更した方が良いか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支部研修に他支部が参加するのは可能ではあるが、他支部からどれだけ人が集まるかわからない。参加費については自己負担であると参加しない人もいるかもしれない。 ・ 参加費は自己負担でもよいのではないか。 ・ 参加費について自己負担はもらっていない。他支部が参加する場合の参加費用は、支部内で話あうことになる。支部が出せる範囲で折半するのが良いのではないか。 ・ 現場職員はなかなか研修に参加できない。自己負担分については、研修を行う支部で出せる範囲で支部が負担し、自己負担をなくした方が参加しやすいのではないか。交通費や自分のプライベートな時間、参加費となると、参加率が低くなると思われる。 ・ 研修について自己負担は多少なりともあった方は良いのではないか。本支部では研修は自己負担有である。 ・ 自己負担は多少なりともあった方が良いのではないか。半分くらい支部もしくは、所属している社協等が負担してくれればなおさら良い。
	<p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部連携研修について、他支部職員が参加は可能。また、事業そのものについて周知されているが、結果として、今年度は挙がってきていない状況。 ・ 参加費については、現行のまま参加者負担となった。

協議事項	委員の意見と結果
<p>職連協支部区割りの検討</p> <p>【現行】</p> <p>支部によって、社協数、会員数に違いが出ている。また、現在の区分けは局長会の構成と異なっている。支部の区割りを見直す必要があるか。</p>	<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこが支部長になるかで、(会議や研修の)移動が大変な社協は出てはくるが、そこまで問題ではない。人数も支部数も今の状態が集まりやすい。 ・支部数はコンパクトだが、バランスをみるとちょうど良い。距離の面でも、だいたいどこの社協も30分ぐらいで行けるので良いと感じている。他ブロックと一緒にになると、集まる際、距離的に時間がかかり参加が困難になってしまうこともありえる。 ・事務局長会の区分けに合わせても、あまり変わらないというイメージはある。 ・今のところ支部数も人数も問題はなく、連携の方も今の方が良いと思われる。 <p>【結果】</p> <p>現行の支部構成のままでも問題がないため、変更なし。</p>
<p>職連協が主催する(専門研修・階層別研修)の在り方について</p> <p>【現行】</p> <p>組織・財務検討委員会において、一度研修案が練られているが、階層別研修では職連協が主催するものと県社協が主催するものが混同している状態。</p> <p>また、専門研修についても会員構成が幅広のため、同一テーマで実施しても参加者が少ないのが現状である。</p> <p>(別紙資料を参照)</p>	<p>【事務局からの現況について報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新任初級研修については、県社協が市町村社協支援の一環として、県社協が毎年主催で行っていく。(引き続き、職連協と事務局長会には共催になってはもらう) ・専門研修についても、アンケートのニーズを基に企画しても、実際に開催すると参加者が集まらない。会員の職種が幅広のため、同一テーマで研修を行っても参加者が少ないのが現状。 <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職連協の研修は、現場職員は現場から出るのが難しく、研修会に参加できないのが現状。職連協と県社協の研修内容が同じであれば統一しても良いのではないか。 ・支部で実施している研修はそのまま継続して、県域全体で行う研修の部分は、県社協に任せた方が良いのではないか。 ・開催しても人が集まらないのであれば、もったいない。集約できる研修は集約をして、関ブロなど他県から集まる研修会の参加に助成金を出すでもよいのではないか。 ・新人職員研修は社協同士の横のつながりや、同期という意識がついてよい。新任職員同士のネットワークが出来れば、例えば他の事業とか何かあった時に他の社協に相談しやすい。このような場が残るのであれば、集約でも良いのではないか。

協議事項	委員の意見と結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職連協主催の研修であると、入っていない社協は参加できなくなってしまうこともある。そういったときには県社協をメインでやった方が良いのではないかと思う。 ・ 様々な職種の方が社協にはいる。そういった会員も参加できるように考えると助成金であれば、職種が違う方もうまく活用できるのではないか。
<p>令和6年度の専門研修・階層別研修について</p>	<p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員全員がメリットを感じる研修は難しく、他団体主催研修の参加費の一部補助や資格取得補助の方が良いのではないか。研修では参集地に近い社協以外は参加しづらい。 ・ 研修についてだが、年々業務量が増えており日々の業務が忙しく、人が出せない状況。事務所も現場も人手不足。 ・ 現場では、研修通知などが届かない。届いた通知は総務で、その職員に関係の有無で分けられるため、現場職員に関係がないと判断された研修は案内が届かないの。 ・ オンラインでの研修であれば参加できる人もいるかもしれないが、現場職員は業務時間中に参加をするのは困難。 ・ 階層別研修だが、自社協に該当職員がいない場合もあるので、参加者を出せない場合もある。 ・ 資格取得について、予算の都合上、希望する人が多い場合などはもらえる人ともらえない人の差が出てしまうかもしれない。 ・ 予算と財源のことを考えると、ソウエルのように資格取得のお祝い金なども良いのではないか。 ・ 研修の参加費補助について、県外だと交通費が出ない場合もある。交通費の補助があっても良いのではないか。 ・ 今、自分が持っている資格のワンランク上の資格を取る場合の補助はどうだろうか。自己研鑽にもなるが、資格がワンランク上になることで、結果的に地域の方たちへのサービスも良くなる。 <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度までに研修体系が議論され、令和5年度に実施したが、専門研修は参加者が少なく、かつ、階層別研修については県社協事業と重複しているものであった。 ・ このため、次年度の事業計画では、専門研修や階層別研修については今一度見直しを行うことを理事会で提案する。研修参加支援や、資格取得支援についても、予算状況を計算したうえで、今、持っている資格のワンランク上の資格を取る場合の補助事業についてを理事会で提案をする。